

7 - 22 2007 年能登半島地震前後の地殻変動連続観測結果

Crustal Deformations associated with Noto peninsula earthquake on March 25, 2007

京都大学防災研究所地震予知研究センター
Research Center for Earthquake Prediction,
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

いずれの観測点も3月の最多雨量またはそれに近い雨の直後か、その降雨中であって、coseismic なステップは明瞭であるが、直前の変化を検出するのは困難である。震源に近接した宝立観測点では数日前に電源異常が発生するなど機器不良と重なったが、ここでは伸縮計に2組のセンサーを互いに逆向きに取り付けており、相互の記録を参照して信頼に足ると判断した成分のみを示す。coseismic なステップ量はディスロケーションを仮定した計算値に対して2桁大きい値が出ている。他の2点では、予想される値とほぼ調和する記録が得られた。上宝のN 45° Eの記録では、降雨とともに非常に大きなドリフトが発生し、その途中でcoseismic ステップを記録し、その直後から局所的な緩和現象を記録している。北陸ではほぼ計算どおりのシエラ成分に重畳して等方的な体積歪の増加を記録した。

(大谷文夫・和田安男・森井 亙・竹内文朗)

2007年能登半島地震に伴う地殻変動

京都大学防災研究所地震予知研究センター



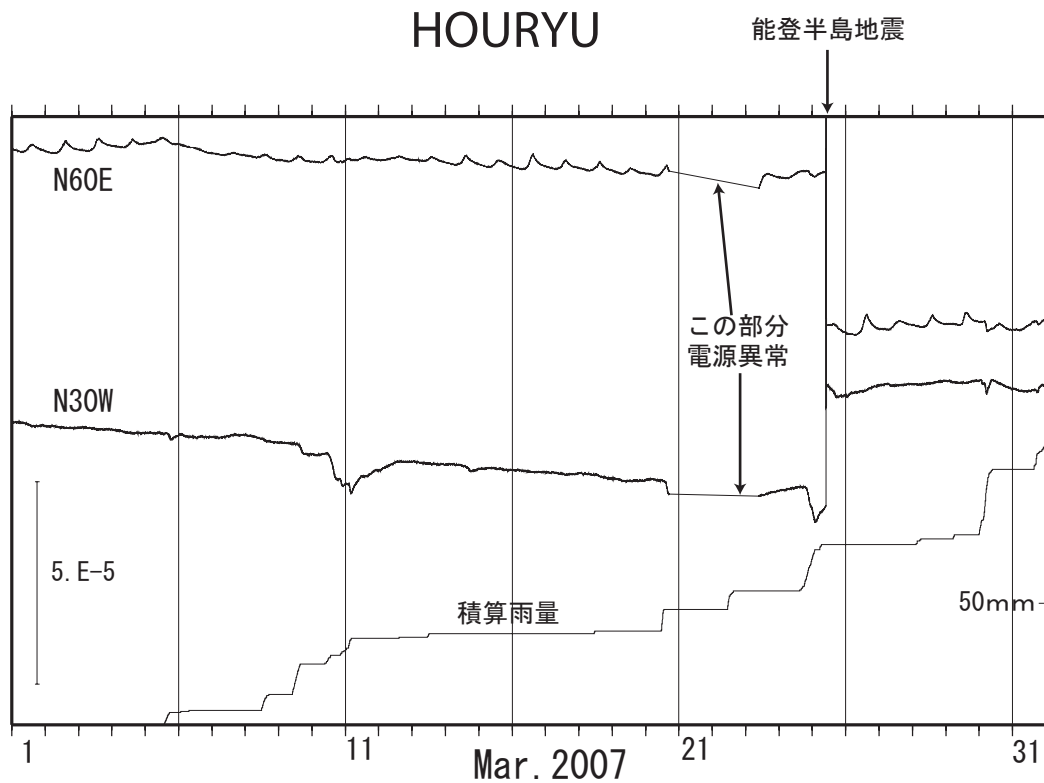
いずれの観測点も3月の連続雨量としては最多ないしそれに近い雨の直後かその間であって、coseismicなステップは明瞭であるが、直前の変化などをすぐに検出するのは困難である。

震源に近接した宝立観測点では各伸縮計に複数のセンサをつけており数日前の機器異常の影響を受けていないと考えられる成分を示す。

上宝蔵柱および北陸の通年の記録は、別項「近畿北部の地殻活動」を参照してください。

第1図 観測点位置図

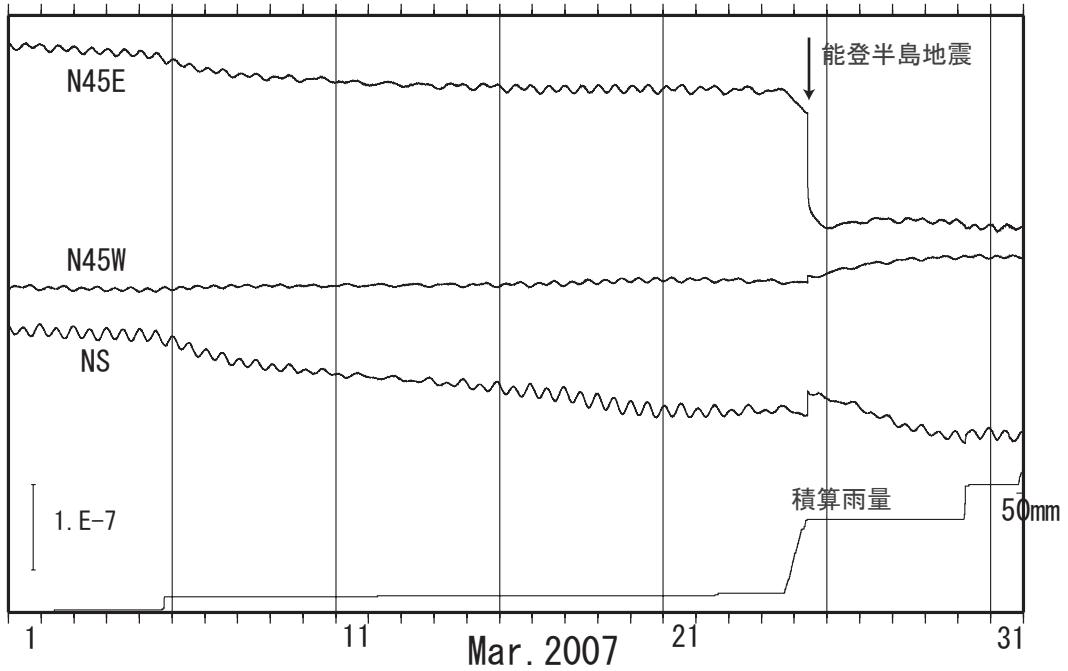
Fig.1 Location map of observatories.



第2図 宝立観測室における歪変化と積算雨量 (2007年3月)

Fig.2 Strain changes and daily precipitation at Houryu observatory. (Apr. 2007).

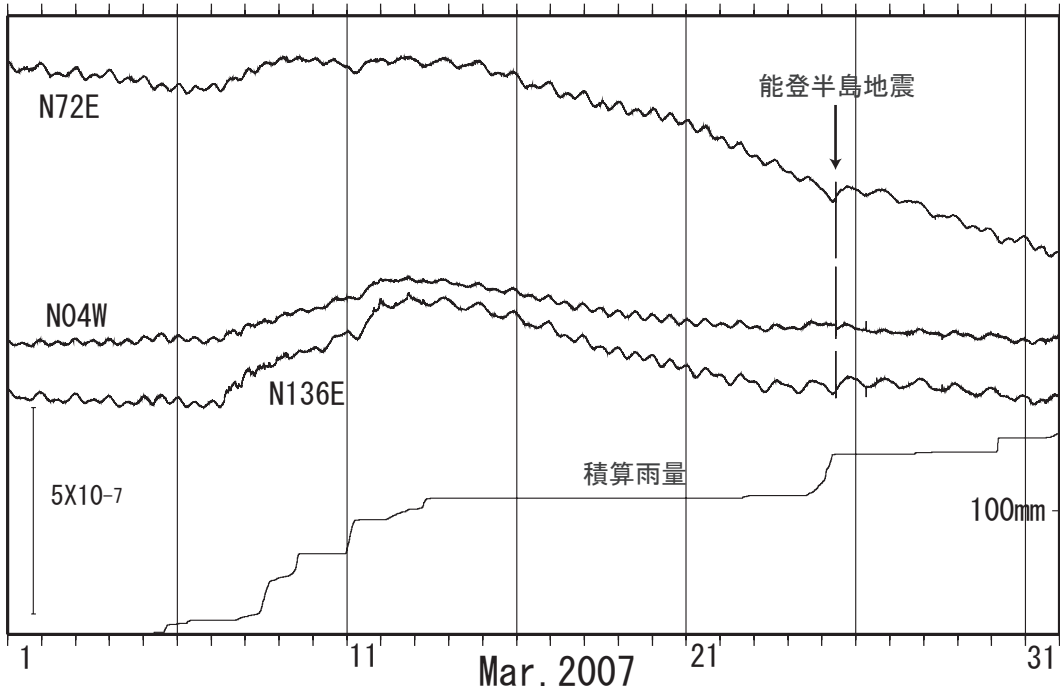
KAMITAKARA



第 3 図 上宝観測所蔵柱観測室における歪変化と積算雨量 (2007 年 3 月)

Fig.3 Strain changes and accumulated precipitation at Kurabashira observatory. (Apr. 2007).

HOKURIKU



第 4 図 北陸観測室における歪変化と積算雨量 (2007 年 3 月)

Fig.4 Strain changes and accumulated precipitation at Hokuriku observatory. (Apr. 2007).